

# 病弱の生徒に対するパソコンの技術や興味を高める取組

【学校名：千葉県立仁戸名特別支援学校】

\*\*\*\*\*  
 ~取組のポイント~

本校は病弱特別支援学校であり、生徒は病状や治療によって授業に参加できないことがある。そのような場合を考慮し、対応ができるよう授業計画を立案している。また、病室や自宅でも授業が受けられるように遠隔の授業を実施する。タイピングの技術向上を生徒自身が実感することで学習意欲が高まるようにする。

\*\*\*\*\*

## 1. 実践の概要

### (1) 対象生徒

高等部生徒 (AII コース) : 1 ~ 3 年 (令和3年度は1、2年生のみ在籍)

### (2) 教科・領域

・教科「情報」の授業 (週3回) の中で実施

### (3) 目標

- ①タッチタイピングが、ほぼ正確に一定の速度で打てるようになる。
- ②「千葉県特別支援学校キャリア教育推進協議会」主催のパソコン検定で、目標の級に合格できるように練習を積み上げる。
- ③「ICT プロフィシエンシー検定協会」主催の ICT 活用の検定 (P 検定) で、目標の級の合格に向けて、基礎的な知識の習得、文書作成ソフトと表計算ソフトの基礎を学ぶ。
- ④簡単なプログラミングの体験を通して、問題解決の思考力を養う。

### (4) 学習計画

月	1 学年	2 学年
4	「タイピング練習」 ・タッチタイピングが正確にできるようになる。 ・文章速度問題に取り組み、正確に日本語変換できるとともに速さにも挑戦する。	「タイピング練習」 ・タッチタイピングの正確性と速度を高めるためにローマ字単語練習に取り組む。 「表計算ソフトの基本」 ・データの入力や編集の方法を理解する。 ・計算式や簡単な関数の使い方を理解する。
5		
6	「文書作成ソフトの基本」 ・ページ設定やさまざまな編集機能を使えるようになる ・一定時間内で社内文章が作成できるように取り組む。 ・表の挿入や編集ができるようになる。 ・画像の挿入や編集について理解する。	「表計算ソフトの基本・応用」 ・簡単なグラフ作成の手順や編集の方法を理解する。 ・計算式や代表的な関数を利用する問題に取り組む。 「情報の基礎知識」 ・コンピュータと情報のデジタル化について学ぶ。
7		
8		
9	「文書作成ソフトの基本」 ・一定時間内で指定文章が作成できるように取り組む。	「情報の基礎知識」 ・ICT を活用した問題解決について学ぶ。
10	「情報の基礎知識」 ・コンピュータと情報のデジタル化について学習する。 「パソコン検定」 ・文字入力速度や文書作成の仕方について学習する。	「文書作成ソフト、表計算ソフトの活用」 ・文書作成ソフトと表計算ソフトの練習問題に取り組む。 「パソコン検定」 ・文字入力速度や文書作成の仕方について学習する。
11		
12	「パソコン検定」 ・希望する級を受検する。 「表計算ソフトの基本」 ・表計算問題の基礎について学習する。	「パソコン検定」 ・希望する級を受検する。 「P 検定」 ・模擬テストを受検する。
1	「P 検定」	「P 検定」

月	1 学年	2 学年
2	・ 文書作成ソフトと表計算ソフトの練習問題に取り組む。	・ データの並び替え、検索と置換、抽出、集計について学ぶ。
3	・ 模擬テスト、検定を受検する。 ・ 1年間の振り返りをする。	・ 模擬テスト、検定を受検する。 ・ 1年間の振り返りをする。

## 2. 実践の内容

- ・ タッチタイピングの習得のため、ホームポジションを覚え、1分間のローマ字単語練習に挑戦して自己ベストを目指す。
- ・ 文書作成ソフトの基本的な技能として、書体・色・大きさの変更、センタリング、ワードアートや罫線等のやり方を覚える
- ・ 表計算ソフトの基本的な技能として関数やグラフの作成方法を覚える。
- ・ パソコン検定の過去の問題を活用し、自分の実力にあった級に挑戦する。
- ・ P 検定に向けて、コンピュータに関する基礎的な知識を習得する。

## 3. 工夫点

- ・ タッチタイピングの習得時は、キーの配列を覚えるために、まず「A～L」の段から行い、できるようになれば「Q～P」の段、次に「Z～M」の段というように、段階を踏んで行った。
- ・ 病状等により登校が難しい生徒に対しては、遠隔で授業ができるようにすることで学習の機会を保障した。

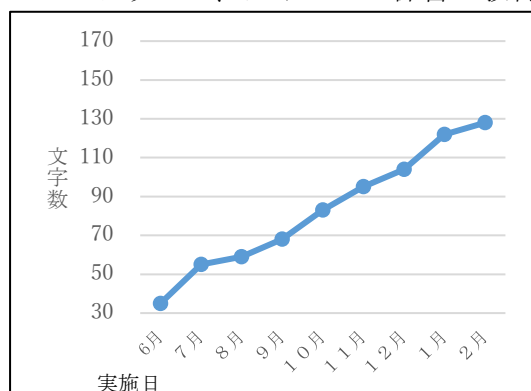
## 4. 実践の評価（成果と課題）

### (1) 成果

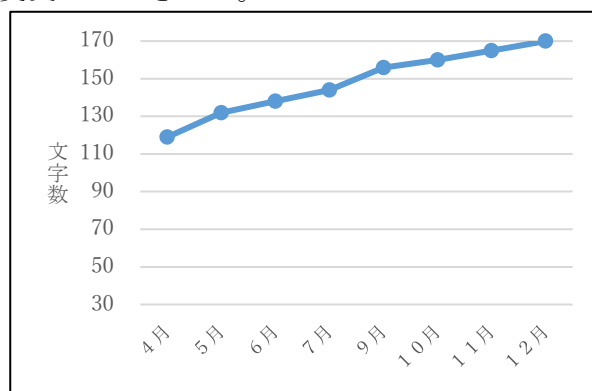
- ・ 授業を重ねるごとに、1分間に文字入力できる速度が速くなっていった（下記グラフ参照）。生徒は、タッチタイピングで良い記録を出すことに力を注いでおり、自己ベストを出す喜びながら報告している。
- ・ パソコン検定は、1級に1年生から1名、2年生から1名が受検し、両名とも合格した。合格することを目標にタイピング練習や文書作成の練習をしている。受検期間に幅があることで、毎日登校が難しい生徒でも試験を受検することができて助かっている。
- ・ 簡単な文書については、手本を見るだけで、手順を確認しなくても作成できるようになった。

### (2) 課題・展望

- ・ 令和3年度より、ICT活用能力のスキルアップとして、パソコン検定の他にもP検を受検することにした。1月頃に模擬テストを実施し、2月中旬に希望する級を受検する予定である。
- ・ ローマ字でのタイピング速度は速いが、漢字を含む文章になると入力速度が著しく遅くなってしまったため、タイピング練習の教材を変更していきたい。



Aさん R2年度（1年生）1分間の文字入力速度



Aさん R3年度（2年生）1分間の文字入力速度